

面 生 新

工場廃水に抗議
する漁民デモが
新日窒水俣工場
でまた不祥事を
ひき起した。二
度目の暴力沙汰
である。漁場を

奪われた漁民たちの激高も
無理はないが、問題は暴力
で解決できる性質のもので
はない▼ちかごろ魚を見る
とすぐに「水俣病」を連想
する。食卓のご馳走もそれ
が近海モノだと「オイだい
じょうぶか」と念を押さず
にいられない。県民の多く
がノイローゼ気味だ▼それ
というのも、水俣近海で漁
獲が禁止されたことをまだ
聞かないし、漁場を失った
漁民への対策もいまだに講
じられていないからであ
る。そこに「ひょっとした
ら」という心配がでてくる
▼もちろん食えないからと
いって危険海域の魚を獲つ
て売るような無茶な漁業者
はおるまい。しかしどこで
獲れた魚であるかの判断が
つかない消費者側にしてみ
れば、やはり「死亡率三割
八分」の大きな恐怖感はど
うにもならぬ▼二十八年に

水俣病が発生してから被病者は七十六人、そのうち二十九人が死亡しているが、ネコの変死にはじまるこの奇病禍はとうとう国会の問題にまで発展、いま現地には大勢の調査団が乗り込んできている▼その最中に大集団の暴力事件である。かりに廃水処理に怠慢だった工場側に責任があつたとしても、大衆動員の力で押しまくるような行為には賛成できない。暴力で“水俣病”が解決できるものならもうとつくに解決しているはずだ▼こうなるまで有効な手を打てなかつた県側にも責任があらう。この点で地元関係当局は調査団から大目玉をくらっている。だが、問題がさんざんコジレて、最悪事態が起きてはじめて国会が取り上げるといふのも、困ったものだ▼人命をおびやかす漁民の生活権を奪い去ろうとする“水俣病”は一日も早く退治しなくてはならぬが、このさい暴力だけはあくまで慎んでほしい。そして調査団の冷静な判断と迅速かつ有効な処理に期待したい。